

令和5年度地域・指定校事業報告書<指定校>

委託先（東京都）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ

人権課題を取り上げた学習を通して、自己肯定感を高める

○調査研究のテーマを設定した目的

本校は、「同和問題（部落差別）」をはじめ、様々な人権課題について、一人一人の生徒がその意義・内容や重要性を十分に理解する必要がある。人権に関する取組を進めていく中で、人権尊重の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる、様々な生活の中の場面や状況下で正しく判断し具体的な態度や行動を適切にできる生徒を育てる。また、一人一台端末を調べ学習や情報の共有、意見の交換等に有効に活用し、基礎学力の向上を図るとともに生徒の自己肯定感を高める。

○調査研究の概要

人権課題「同和問題（部落差別）」を中心に学習を進める。同和問題の歴史的背景や職業に対する偏見や差別が生まれた時代背景について調べたり、考えたりする際、体験を含めた学習を通して、同和問題をはじめ様々な人権課題の解決に取り組もうとする能力や態度を育成する。また、協働的な学びの場を設定したり、対話を促進する学習形態を工夫したりすることにより、主体的に学び、自分の価値観や役割を自覚し、自己肯定感を高める。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

台東区立桜橋中学校

○これまでの研究指定等の状況

令和 2 年 文部科学省「人権教育研究指定校事業」指定

○学級数

5 学級

○児童生徒数 (R.6.1.31)

全生徒数：137 名

○URL

<https://www.taito.ed.jp/swas/index.php?id=1320116>

○指定理由

本校は、長年にわたり、人権教育を推進しており、同和問題を重点としてそれぞれの人権課題についての正しい知識を学び、偏見や差別を許さない態度を育成している。これまで人権教育の推進・啓発に取り組んできたことを生かし、更に人権教育研究指定校として継続した人権教育を推進していきたい。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題 1 つに◎印を付与

①子供	○
②女性	
③高齢者	
④障害者	○
⑤ <u>同和問題</u>	◎
⑥ <u>アイヌの人々</u>	
⑦ <u>外国人</u>	
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 <u>ハンセン病患者等</u>	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他 ()	

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

【他者理解】

個別的な視点、普遍的な視点からの取組を意図的・計画的に推進することで、正しく判断し、行動できる生徒を育てることができるだろう。

【自己肯定】

基礎学力を向上させることで、達成感や成就感による自己肯定につながり、自己肯定感を育てることができるだろう。

【認め合い】

人や地域と触れ合う体験を系統的・計画的に実施することで、思いやりの気持ちと協力し合う心を育てることができるだろう。

○ 地域の歴史的背景や特色を踏まえ、人権課題「同和問題（部落差別）」

を中心に取り上げ、自他を大切にする態度を養う。

- ・様々な人権課題を取り上げた授業実践
- ・基礎学力向上に向けた取組
- ・人権に関わる環境整備
- ・教員による人権課題についての研修

○実施方法

○様々な人権課題を取り上げた授業実践

・社会科 人権課題「同和問題（部落差別）」

第3学年 「二度の世界大戦と日本」の单元において、様々な社会運動の中から、全国水平社の結成を取り上げ、偏見や差別の不合理性に気付き、その解消に向けて主体的に行動しようとする姿勢を育んだ。

第2学年 「身分制の下での暮らし」の单元において、江戸時代の身分制社会の下での人々の暮らし、身分上の差別は非合理なものであることを理解した。また、「開国と近代日本の歩み」の单元では、明治維新と近代国家の形成について、近代の日本に見られる課題を主体的に追究、解決しようとする活動を通して、偏見や差別の不合理性に気付き、その解消に向けて主体的に行動しようとする姿勢を育んだ。

・特別の教科 道徳 人権課題「子供」 第1学年

「いじめのない集団」 C公正、公平、社会正義 「さかなのなみだ」

話合いや発問などからいじめの問題を多面的・多角的に考える活動を通して、自身の身の回りにおいて、人間としてよりよい集団を築くために、いじめなどを見て見ぬふりをせず、積極的に正義や公正を実現しようとする態度を育てた。

・特別活動 人権課題「障害者」 第2学年

「VRを活用した発達障害のバリア体験」

感覚過敏（聴覚）及びA D H Dなどの発達障害がある人の生活をV R（仮想現実）で体験することを通して、それらの障害に対する正しい理解を深めた。さらに、偏見や差別を解消するために、どのようなことができるかを考え、発表し、人権を尊重しながら共に生きていこうとする態度を育てた。

・特別活動 人権課題「高齢者」「障害者」 第1学年

「バリアフリー／ユニバーサルデザイン学習会」

高齢者や障害がある人が、社会の一員として生活していることを理解し、生活の中で互いに支え合おうとする態度を育てる。さらに、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する講話を聴き、その後の個別での調べ学習を通して、日常生活を送る中でこれらが果たしている役割を学習すると共に、クラスや学年集会での発表活動を行い、学びを深めた。

- ・特別の教科 道徳 人権課題「インターネットによる人権侵害」第3学年
「相手の気持ちを考える」B相互理解、寛容 「言葉の向こうに」

インターネットによる人権侵害について考えることを通して、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、望ましい人間関係づくりの中で正しく判断しようとする態度を育てた。自分の発する言葉の向こうにそれを受け取る他者がいることや異なった考えを受け入れることの大切さについて、話し合い活動によって考えた。

○基礎学力向上に向けた取組

- ・朝学習や補充教室などの基礎学力向上の取組を、年間を通して行った。
- ・漢字・計算・スペリングのコンテストを実施し、成績優秀者の表彰や追試、補充学習を行い、自己肯定感を高め、学習への励みになった。
- ・朝の15~20分間、テスト前の学習期間を除いて、落ち着いた雰囲気で読書に取り組んだ。読書への意欲を高め、読書習慣の定着、読解力の向上を図っている。また、生徒が主体的に読書に取り組むために「ビブリオバトル」を実施した。「ビブリオバトル」においての発表やディスカッション、発表後の投票を通して、自他共に認め合う感覚を養った。
- ・定期考査や各種検定（実用英語技能検定、日本漢字能力検定等）前の放課後や長期休業中に区の会計年度任用職員「学力向上推進ティーチャー」を活用しながら、国語・数学・英語の補充学習を実施した。基礎学力の定着を図り、生徒の学習意欲を高めることにより、人と比べて優れているかどうかで自己評価するのではなく、自分を認める感覚を育むことにつながった。

○人権に関わる環境整備

- ・様々な人権課題の解消に向けて、普遍的な視点、個別的な視点から考え、人権標語・人権作文づくりを行う。人権標語の優秀作品は生徒のみならず来校者の目にも触れる場所に掲示し、人権を常に意識する一助とした。
- ・地域清掃（生徒会本部・美化委員）、地域行事でのボランティア活動、朝のあいさつ運動、資源回収等、人権意識の向上のため、生徒が主体的に活動し、協働する機会をつくった。実践にあたっては、その意義を理解させ、人権感覚を高めるとともに、自他を大切にし、認め合う心を育むことを意識させた。

○教員による人権課題についての研修

- ・東京都人権啓発センターと連携した研修を実施し、DVD視聴や講義、フィールドワークにて、人権課題「同和問題（部落差別）」についての認識を深めるとともに、地域に根ざした人権問題について理解することで、教職員の人権感覚をさらに磨き、生徒指導につなげた。

4. 検証・評価・改善・普及

・成果の検証・評価については、7月と11月に全校生徒に対して、以下の(1)～(4)を質問項目とした「学校生活に関するアンケート」を行い、人権教育の取組を経て、「人権意識」「自己有用感」等について、生徒たちの意識がどのように変化したかを調査した。

- (1) 学校生活で人のことを思いやったり、考えたりして生活していますか
- (2) 意欲的に学習に取り組んでいますか
- (3) 自分に良いところがある、自信がもてることがあると思いますか
- (4) 人や集団のための活動にしっかり取り組んでいますか

結果としては、各項目において肯定的な回答について、伸びが見られる。さらに、学力向上とそれ以外の領域でも生徒個々に自信をもたせることにつながるような取組が求められる。

- ・人権教育の年間指導計画を作成し、その活動の点検・評価を行う。

年度が始まってから決まった学習活動や講師招聘等の関係で、別添のとおり年間指導計画を見直しながら人権教育を進めた。

・今年度の取組と成果、課題についてリーフレットにまとめた。区内全幼稚園、小学校、中学校、東京都教育委員会人権尊重教育推進校に配布する。

・研究の内容や成果等について、学校のホームページや学校便り等で、地域・保護者等に発信し、普及・啓発を図る。

5. 人権教育に係る年間指導計画

台東区立桜橋中学校

令和5年度 人権教育年間指導計画（1年）

学級経営	各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	その他 地域との連携等
4月 人権に関わる学級の目標を設定する。	理科「植物の世界」：植物の学習を通して自然と人間との関わり方や生命を尊重する態度を育てる。	C-(15)よりよい学生生活、集団生活の充実 「むかで競走」：学級や学校の一員として自らの役割と責任を自覚し、協力し合って学校生活を充実させようとする態度を育てる。	校内生活委員会の「あいさつ運動」や、美化委員会「空き缶紙パック回収」等の活動を通じて地域社会や集団の一員としての自覚を育む。	「栽培体験学習」農作業を通して、自然と人間との関わりを考えると共に、互いに協力し合う態度を身に付ける。	
5月 生徒相互の関係を把握する。 生徒理解を深め、教員と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を築く。	国語「友達を紹介しよう」：ペアになり互い段材しスピーチを行う。他者を理解し正確に伝える方法を考える力を身に付ける。	C-(10) 違法精神・公徳心「ふれあい直売所」：さまざまの意義を理解し、守ることで、自他の権利を重んじ、よりよい社会をつくろうとする実践意欲を育てる。	「運動会」生徒相互の協力の下に公正に競技を行い、適切に運営する。	「様々な人権誤題を調べよう」「同和問題（部落差別）を中心に、人権に関する基本的な知識を確実に学び、その内容や意義について知的的理解を深める。	
6月 全ての生徒の学校生活への適応を図る。 【人権誤題 障害者】	英語「Assistant Dogs」：視覚障害者に対して手助けしようとする、優しく温かい心を育てる。	B-(6)思いやり、感謝「人のフリみて」：日々の生活中で自分を支えてくれている多くの善意や思いやりに気づき、自分の感謝の気持ちを素直に表そうとする態度を育てる。	【人権課題 同和問題（部落差別）】	【人権課題 同和問題（部落差別）】	
7月			消に向けて人権感覚を磨く機会とする。【人権誤題 子供・高齢者・障害者・同和問題・インターネットによる人権侵害】	「夏休み体験ボランティア」身近な奉仕活動を通して、社会に設立つ喜びを味わう。	
8月					

9月	一人一人が個性を発揮して活躍できる場や機械を設定することにより、学級の一員として認められているという存在感、安心感をもつようにする。	音楽「拍の流れにのって明るい声で歌おう」:仲間と共に声を合わせて歌うこと、互いを認め合うような関係をつくると共に、豊かな情操を養う。社会「移民と多文化社会」:先住民との共存や異文化理解の必要性など多文化社会で発生することが予想される問題点とその克服のための取組について考察し説明できるようとする。	D-(20)自然愛護「木の声を聞く」:自然の崇高さを知り、自然に謙虚に向き合ひながら自然の愛護に努めようとする態度を育てる。 B-(13)友情、信頼「部活の帰り」:異性について理解を深め、互いに着手の人格を尊重し、接していく態度を育てる。 A-(1)自立、自立と責任「二人の約束」:社会生活上のルールやモラルを守る。 C-(11)公正、公平、社会正義「さかなのなみだ」:同調圧力などに屈することなく、自己と向き合い互いに協力して正義や公正を実現するために努力しようとする態度を育てる。【人権誤魔化子供】 D-(19)生命尊さ「あなたはすごい力で生まれてきた」:生命のかけがえのなさ、尊さを理解し、自他の生命を大切にしようとするとする態度を育てる。	「生徒会役員選挙」:自治的意識の涵養と責任感を高める。 「ふれあい講演会」:高齢者・障害がある人が、社会の一員として生活し互いを理解する。さらに、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて、学びを深める。【人権課題 高齢者・障害者】 「文化祭・合唱コンクール」互いの学習の成果を発表し認め合う機会をもら、相互協力の大切さに気付く。	「ふれあい体験学習」:高齢者福祉施設や福祉作業所、保育園等で様々な人と接する体験をすることにより、相手の立場に立って考えることの大切さをしり、人を大切にする気持ちを育てる。	「青少年フェスティバル」:身近な奉生活動を通して、社会に役立つ喜びを伝わる。
10月						
11月						
12月						
1月						
2月		美術「鑑賞」:美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、自らの夢や可能性の世界を広げていく豊かな情操を養う。				
3月	1年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確認する。		D-(18)国際理解、国際貢献「違いを乗り越えて」:日本の習慣や文化のよさを理解するとともに、他の国々の人々や文化に対する理解を深め、尊重しようとする意欲を高める。 D-(22)よりよく生きる喜び「いつわりのバイオリン」:人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きる喜びを見出そうとする心情を育む。			

台東区立桜橋中学校

令和5年度 人権教育年間指導計画（2年）

	学級経営	各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	その他 地域との連携等
4月				校内生活委員会の「あいさつ運動」や、美化委員会「空き缶紙パック回収」等の活動を通じて、自然と人間との関わりを考えると共に、友達と寝食を共にする中で互いに認め合い協力し合う態度を身に付ける。		
5月	人権に関わる学級の目標を設定する。 生徒相互の関係を把握する。	社会 「身分制の下での暮らし」 江戸時代の身分制社会の下での人々の暮らし、身分上の差別は非合理なものであることを理解する。 【人権課題 同和問題（部落差別）】	C - (13) 勤労「そうじの神様が教えてくれたこと」：勤労は個人の生活のいじや幸福追求と同時に、社会的分業によって社会に貢献していることを自覚し、勤労に対する意欲を高める。			
6月	生徒理解を深め、教員と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を築く。	国語「印象に残るプレゼンテーションをしよう」：自分たちの提案したいことを分かりやすく説明する。相手の理解や同意を得るために動画らいかが考える。	D - (19) 生命の尊さ「最後のパートナー」：命がかけがえのないものであることを理解し、自他の生命を尊重する心を育て、周りの人と支え合っていきることに感謝する心情を養う。	「運動会」生徒相互の協力の下に公正に競技を行い、適切に運営する。		
7月	全ての生徒の学校生活への適応を図る。	理科「動物の世界」：からだのつくりやはたらき、また動物の生活の学習を通して、人間と自然との関わり合いや、生命を尊重する態度を育てる。	C - (18) 国際理解、国際貢献「ダシュー・ニシオカ」：それぞれの国の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解し、その上で日本人として国際協力を積極的に行おうとする態度を培う。 【人権課題 外国人】	「人権標語・人権作文」様々な個別の人権課題について学習し、その偏見や差別の解消に向けて人権感覚を磨く機会とする。		「夏休み体験ボランティア」身近な奉仕活動を通して、社会に役立つ喜びを味わう。
8月		美術「絵・デザイン」：創作活動を通して感性を豊かにするとともに、創造したものが心に潜いをもたらしたり、他者に認められたりすることで自己肯定感を育てる。		【人権課題 子供・高齢者・障害者・同和問題・インターネットによる人権侵害】		
9月	一人一人が個性を発揮して活躍できる場や機会を設定することにより、学級の一		B - (7) 札儀「挨拶はスキンシップ」：心と形が一つになれた札儀や作法の意義に気づき、相手を尊重する心を込めて、形に表していくとする態度を養う。	「生徒会役員選挙」自治的意識の涵養と責任		「青少年フェスティバル」身近な奉仕活動を通して、社会に役立つ喜びを味わう。

10 月	員として認められているという存在感、安心感をもてるようとする。	社会「開国と近代日本の歩み」：明治維新と近代国家の形成について、近代の日本に見られる課題を主体的に追究、解決しようとする活動を通して、偏見や差別の不合理性に気付き、その解消に向けて主体的に行動しようとする姿勢を育む。【人権課題 同和問題（部落差別）】	C-(1) 公正、公平、社会主義「あなたには見えていますか」社会の在り方について関心を向け、身近にある偏見や差別に気付き、偏見や差別をなくそうとする態度を養う。【人権課題 章告者】 D-(19) 生命の尊さ「命を見つめて」：限りある生命を懸命に生きることの大切さを理解し、互いに支え合って生きようとする心情を養う。	任感を高める。 「ふれあい講演会」障害がある人の生活について、VRで体験し、考える。【人権課題 章告者】	「職場体験学習」販売や製造等の職業体験を通して、地域社会の中で生活していることを自覚するとともに、准手の立場に立って考えることの大切さをしり、人を大切にする気持ちを育てる。	「留学生は先生」他国文化を理解すると共に、改めて自分たちの国を振り返る機会とする。
11 月						
12 月		社会「人権思想からフランス革命へ」フランス革命によって、社会はどういうに変化したのか、啓蒙思想を示す資料や『人権宣言』などから読み取り、明治以後の日本にも大きな影響を与えるようになつたことについて、自分なりの意見を構築する。【人権課題 同和問題（部落差別）】	A-(1) 自主、自律、自立と責任「ネット持続：誠実に行動することの大切さを理解し、自主的に行動しその結果に責任をもとうとする態度を育てる。 B-(8) 友情、信頼「恋する涙」：背みや葛藤を乗り越えることで眞の友情は培われるものであることを理解し、相手に信頼される自分になろうとする実践意欲を高める。			
1 月			C-(12) 社会参画、公共の精神「行動する建築家　坂茂」：社会参画の意識を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現のために貢献しようとする態度を育む。			
2 月						
3 月	1年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確認する。		A-(3) 向上心、個性の伸長「『自分』ってなんだろう」人それぞれ必ずその人固有のよさがあり、その発見と自己受容・自己理解に努め、自分らしさを發揮できる生き方を求める。			

台東区立桜橋中学校

令和5年度 人権教育年間指導計画（3年）

	学級経営	各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	その他 地域との連携等
4月		社会「二度の世界大戦と日本」様々な社会運動の中から、金匸水平社の結成を取り上げ、偏見や差別の不合理性に気付き、その解消に向けて主体的に行動しようとする姿勢を育む。【人権課題 同和問題（部落差別）】		校内生活委員会の「あいさつ運動」や、美化委員会「空き缶紙パック回収」等の活動を通じて地域社会や集団の一員としての自覚を育む。	「修学旅行、寝食を共にする中で互いに認め合い協力し合う態度を身に付ける。」	
5月	人権に関わる学級の目標を設定する。 生徒相互の関係を把握する。	音楽 オーケストラの響きを咲わいながら作曲者の思いを感じ取ろう！：デュオは「コーロッパの心臓」としたえられ交易の町として栄えてきたため、紛争が絶えず制圧されてからは毎国語も自由に話すことができなかつた。作曲者が曲に込めた思いとともに人権についても触れる。	B-（6）おもいやり、感謝 「塩ねすび」：家族などの支えや多くの人々の善意により、日々の生活や自分があることに感謝し、進んで周囲の思いに応えようとする態度を育てる。 A-（3）向上心、個性の伸長 「新しい夏のはじまり」：自己を見つめ、これまでの自分を冷静かつ客観的に振り返るとともに、経験を生かした自分らしい生き方をしようとする態度を育てる。	「運動会」生徒相互の協力の下に公正に競技を行い、適切に運営する。	「人権講話・人権作文、様々な個別の人権課題について学習し、その偏見や差別の解消に向けて人権感覚を磨く機会とする。【人権課題 子供・高齢者・障害者・同和問題・インターネットによる人権侵害】	
6月	生徒理解を深め、教員と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を築く。		B-（9）相互理解、寛容 「言葉の向こうに」：よりよい人間関係を築くために相互理解と寛容について理解を深め、自分の思いを適切に伝え、相手の思いを素直に取り入れようとする実践意欲を養う。【人権課題 インターネットによる人権侵害】			
7月	全ての生徒の学校生活への満足を図る。					
8月						夏休み体験 ボランティア、身近な奉仕活動を通して、社会に役立つ喜びを味わう。
9月	一人一人が個性を發揮して活躍できる場や機会を設定することにより、学級の一員として認められているという存在感、安心感をもて	英語 [Lesson 4, 広島原爆・世界平和]：日本が第2次世界大戦時に原子爆弾を落とされたことで、一人の幼い命が希望を失った。読み物を通して命の尊さを学ぶ。	B-（7）礼儀 「出迎え三歩、見送り七歩」：礼儀は形と心が溶け合つたものであることを理解し、相手に対する敬愛の念を態度で示そうとする実践意欲を育てる。	「生徒会役員選挙、自治的意識の涵養と責任感を高める。 「ふれあい講演		

10 月	るようにする。	社会「人権と共に社会」：日本国憲法の精神である“個人の尊重”が、各条文(特に人権規定の条文)に貫かれていることを学ぶ。【人権課題 子供・高齢者・障害者・医療問題】 英語「Lesson 6, I Have a Dream」：キング牧師の演説をはじめとするアメリカの公民権運動を通して、有色人種への差別について考える。	B-（8）友情・信頼 「ゴリラのまねをした彼女を好きになった」：異性への理解を深め、相手の内面的なよさに目を向け、互いを向上させようとする心情を育成する。 D-（22）よりよく生きる喜び 「風に立つライオン」：风になる弱さと向き合い、それを克服することで生きる喜びを見出そうとする実践意欲を育てる。	会、インターネットによる誹謗・中傷についての講演会を実施。 「文化祭・合唱コンクール」互いの学習の成果を発表し認め合う機会をもち、相互協力の大切さに気付く。		「青少年フェスティバル」身近な奉仕活動を通して、社会に役立つ喜びを味わう。
11 月						
12 月			C-（17）我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 「昔と今を結ぶ糸」：日本人としての自覚を深め、受け継がれてきた歴史や伝統文化の素晴らしさを理解し、発展させていく態度を培う。			「留学先に先立」他国の文化を理解すると共に、改めて自分たちの国を振り返る機会とする。
1 月		A-（4）希望と勇気、克己と強い意思 「銀メダルから得たもの」：より高い目標を設定し、その実現のために努力や希望・勇気の必要性を理解するとともに、困難や失敗を乗り越えてやり遂げようとする実践意欲を高める。				
2 月		家庭「家庭と家族関係」：固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女が相互に協力し支え合うことで家族関係をよりよくしようとする態度を育む。【人権課題 子供】	A-（2）節度、節制 「ある朝のできごと」：節度を守り節制に心掛けた安全で調和のある生活を重んじ、自己の欲望や衝動を抑えた行動をとろうとする判断力を育む。			
3 月	1年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確認する。	C-（15）よりよい学校生活、集団生活の充実 「お別れ会」：自分の学校に対する愛着を深め、協力して校風を継承し、発展させようとする態度を育てる。				

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

